

区分：基準○、意向×

## 紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

### 1 基本情報

医療機関名	医療法人社団成和会山口病院
所在地	船橋市西船5-24-2

### 2 紹介受診重点医療機関とならない理由

当院への紹介については、里帰り分娩などの地域間の紹介、分娩を取り扱わない診療所からの紹介を中心としており、高度医療を目的としないこと。

また、経済的に厳しい患者をはじめとした地域一般の患者を対象とすることから、紹介受診重点医療機関のかかりつけ医などからの紹介状を持って受診いただくことに重点をおき、一部負担金（3割負担等）とは別の「特別の料金」が原則必要となった場合、当院の目的や地域での役割と異なってくるため、当院はこの「紹介受診重点医療機関」に該当しないと思われる。

(参考：貴院からの報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来 (紹介受診重点外来)の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	46.2%	26%	6.3%	10.3%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	107日/4,137日	1,522日/16,597日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	1,745日/4,137日	2,734日/16,597日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	188日/4,137日	133日/16,597日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考基準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

区分：基準○、意向×

## 紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

### 1 基本情報

医療機関名	医療法人社団瑞鶴会鶴木クリニック医科・歯科
所在地	市川市八幡1-19-13

### 2 紹介受診重点医療機関とならない理由

今回、基準は満たしておりますが、当クリニックとして紹介受診重点医療機関の意向は辞退させて頂きたく思います。理由は以下の通りです。

当クリニックは相対的に紹介受診の割合が相対的に高いものの、今回の「地域で基幹的に担う医療機関としての「紹介受診重点医療機関」の明確化」とは紹介受診に至る経緯が異なり、当クリニック来院患者さんの紹介受診の経緯は、全国の医療・歯科医療機関さまからであり、本事業の目的である地域医療の更なる充実とは、異なると考えられるため、本事業での選定医療機関には該当しないと判断いたしました。しかしながら、地域医療のさらなる拡充は、我が国医療の喫緊の課題であることも重々承知しておりますので、当クリニックにて可能なご協力はさせて頂きたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします

(参考：貴院からの報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来 (紹介受診重点外来)の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	90.8%	33.4%	0%	0%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	34日/76日	110日/386日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	67日/76日	38日/386日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	66日/76日	30日/386日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考基準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

## 紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

### 1 基本情報

医療機関名	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院
所在地	習志野市泉町1丁目1番1号

### 2 紹介受診重点外来に関する基準を満たす蓋然性等

#### (1) 今後基準を満たす蓋然性

※報告では基準を満たしていないものの、今後満たす見込みや理由について御記載ください。

- ・外来機能報告の時点で「外来腫瘍化学療法診療料」について報告漏れがあった。  
年間件数 誤) 0件 → 正) 2, 431件
- ・発熱外来の対応等により基準を満たさない患者が増加していたが、5類移行後は紹介率・逆紹介率も回復し高水準で推移している。

#### (2) 基準を満たすことが予想される時期やスケジュール (見込)

※基準を満たすことが見込まれる時期やそのための取り組みやスケジュールについて御記載ください。  
新型コロナウイルス感染症の5類移行により対応患者数が減少し、地域連携について強化を行なっている。

#### (3) 現時点で基準を満たしていないものの、意向を示す理由

※厚生労働省が示す次の3類型に関連付けて、貴院の外来医療の実施状況等について御説明ください。

- ① 医療資源を重点的に活用する入院前後の外来 (例 悪性腫瘍手術前後の外来)  
看護師不足により一部病棟の閉鎖を行ない入院患者が減少したが、地域の中での病院の役割は変わっていない。引き続き入院前後の検査・フォローを含めた救急患者・紹介患者の受入れを行なっていく。
- ② 高額等の医療機器・設備を必要とする外来 (例 外来放射線治療)  
急性期医療を担う医療機関として入院医療を中心に行なっている。  
地域医療支援病院として地域のクリニック等から検査の依頼を受けている。
- ③ 特定の領域に特化した機能を有する外来 (例 紹介患者に対する外来)  
地域で中心的役割を担う医療機関として、クリニックとの連携を行なっている。

上記より、地域の基幹病院として連携をし、今後も紹介受診重点医療機関として紹介患者を積極的に受け入れていきたい。

(参考：貴院からの令和5年度報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来 (紹介受診重点外来) の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	61.9%	23.7%	64.1%	93.8%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来*	746日/11,430日	13,189日/129,919日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	3,884日/11,430日	17,515日/129,919日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	4,797日/11,430日	3,754日/129,919日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

区分：基準×、意向○

## 紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

### 1 基本情報

医療機関名	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院
所在地	市川市国府台1-7-1

### 2 紹介受診重点外来に関する基準を満たす蓋然性等

#### (1) 今後基準を満たす蓋然性

※報告では基準を満たしていないものの、今後満たす見込みや理由について御記載ください。

- ・医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来については、令和5年度より入院院支援センターを開設し、主に消化器内科、外科の患者を対象に行っている。令和6年度以降は順次診療科を拡大していく予定である。
- ・高額等の医療機関・設備を必要とする外来については、外来化学療法加算、外来腫瘍化学療法診療料をそれぞれ年間400件程度算定しているが、引き続き件数が増加するよう積極的に該当患者の受け入れを行っていく。
- ・特定の領域に特化した機能を有する外来については、現時点で当院逆紹介後に30日以内に受診するような認識が希薄のため、医師向けの会議等で周知することによって増加が期待される。
- ・紹介受診重点医療機関に必要な急性期の患者の受け入れを救急科中心に増加していく。

#### (2) 基準を満たすことが予想される時期やスケジュール（見込）

※基準を満たすことが見込まれる時期やそのための取り組みやスケジュールについて御記載ください。

- ・基準達成見込み時期 2025年～2027年度内
- ・2024年度より紹介受診重点医療機関の要件を満たすように各種会議、委員会を通して職員に周知しつつ、連携医への医療機関訪問を増やして患者さんの紹介、逆紹介の依頼をお願いしていく。

#### (3) 現時点で基準を満たしていないものの、意向を示す理由

※厚生労働省が示す次の3類型に関連付けて、貴院の外来医療の実施状況等について御説明ください。

- ① 医療資源を重点的に活用する入院前後の外来（例 悪性腫瘍手術前後の外来）
  - ・二次救急医療機関として、令和4年度は救急車を2,375台受け入れ963人の入院、令和5年度は1月末まで救急車を1,732台受け入れ777人の入院実績である。
- ② 高額等の医療機器・設備を必要とする外来（例 外来放射線治療）
  - ・当院の放射線科ではPET/CTに力を入れており、東葛南部だけでなく松戸市など東葛北部からの医療機関からの依頼に対応している。
  - ・当院の消化器内科は内視鏡診療を得意としており、最新のスコープ・光源を用いた正確な診断・治療の実績を有している。

区分：基準×、意向○

- ・令和4年度に耳鼻科外来ユニットを更新し、引き続き連携医からの紹介患者を受け入れている。
- ③ 特定の領域に特化した機能を有する外来（例 紹介患者に対する外来）
- ・登録連携医が令和5年12月末時点で379名おり、専門的な医療を要さない外来患者さんには積極的に逆紹介を行っている。

（参考：貴院からの令和5年度報告値）

区分	医療資源を重点的に活用する外来 （紹介受診重点外来）の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	53.9%	13.8%	65.9%	86.6%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	446日／7,953日	6,949日／146,126日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	2,386日／7,953日	12,507日／146,126日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	2,996日／7,953日	2,226日／146,126日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

## 紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

### 1 基本情報

医療機関名	順天堂大学医学部附属浦安病院
所在地	浦安市富岡2-1-1

### 2 紹介受診重点外来に関する基準を満たす蓋然性等

#### (1) 今後基準を満たす蓋然性

※報告では基準を満たしていないものの、今後満たす見込みや理由について御記載ください。

基準となる報告値は、全て前年報告の数値を上回っていますが、前年同様、紹介受診重点外来の再診の割合（22.4%）が基準値（25%以上）を満たしていませんでした。

当院では、紹介初診患者数は増加傾向にあり、2022年5月からは、リフィル処方を導入すると共に、症状の落ち着いた患者の逆紹介を推進している。

2023年4月にフットケアセンター、身体機能検査センターを開設するなど、複数科による専門医療・チーム医療を推進し、また、9月には、千葉県で2施設目の高度救命救急センターに指定されるなど、高度な医療を提供している。

2024年1月には、MRI装置の更新、次年度には、放射線治療装置の更新や外来化学療法室の増床も予定されている。

#### (2) 基準を満たすことが予想される時期やスケジュール（見込）

※基準を満たすことが見込まれる時期やそのための取り組みやスケジュールについて御記載ください。

2023年度は、フットケアセンターの開設、身体機能検査センターの開設、高度救命救急センターの指定、MRI装置の更新が実施された。

2024年度には、外来化学療法室の増床、放射線治療装置、マンモグラフィーの更新が予定されており、基準を満たすことが出来ると考えている。

区分：基準×、意向○

(3) 現時点で基準を満たしていないものの、意向を示す理由

※厚生労働省が示す次の3類型に関連付けて、貴院の外来医療の実施状況等について御説明ください。

- ① 医療資源を重点的に活用する入院前後の外来 (例 悪性腫瘍手術前後の外来)
- ② 高額等の医療機器・設備を必要とする外来 (例 外来放射線治療)
- ③ 特定の領域に特化した機能を有する外来 (例 紹介患者に対する外来)

フットケアセンターの開設 \* 2023年4月 (済)

身体機能検査センターの開設 \* 2023年4月 (済)

高度救命救急センターの指定 \* 2023年9月 (済)

MR I 装置の更新 \* 2024年1月 (済)

放射線治療装置の更新 \* 2024年度 予定

マンモグラフィーの更新 \* 2024年度 予定

外来化学療法室の増床 (17床→23床) \* 2024年4月予定 (工事中)

血液浄化センターの増床 (15床→18床) \* 2025年度 予定

(参考：順天堂大学浦安病院からの令和5年度報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来 (紹介受診重点外来)の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	60.8%	22.4%	67.4%	70.8%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	2,236日/28,168日	45,621日/427,232日	-	-
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	10,163日/28,168日	63,671日/427,232日	-	-
特定の領域に特化した機能を有する外来	13,246日/28,168日	9,952日/427,232日	-	-
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

区分：基準×、意向○

## 紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

### 1 基本情報

医療機関名	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院
所在地	船橋市海神6-13-10

### 2 紹介受診重点外来に関する基準を満たす蓋然性等

#### (1) 今後基準を満たす蓋然性

※報告では基準を満たしていないものの、今後満たす見込みや理由について御記載ください。

##### ○初診の割合について

令和4年8月に紹介受診重点医療機関の認定を受けて令和6年2月より選定療養費を基準金額での徴収に変更した。これに伴い紹介状を持参しない軽症な患者さんを減少する事で基準値を満たすことが期待できる。

(参考：初診時選定療養費 1,650円から7,700円に変更)

##### ○再診割合について

当院では厚生労働省が掲げる「かかりつけ医・2人主治医制」を推進している。状態の安定した患者さんを積極的に逆紹介する事により、専門的医療を要さない外来患者さんの数を減少させる。また、外来患者数を減少させることにより医師の外来勤務負担を軽減させ、入院機能強化に繋げる。これにより、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を構築でき、今後重点外来医療を活用する患者さんを増加させることで基準値を満たすことが期待できる。

##### ○紹介率

令和6年2月より選定療養費を基準金額での徴収を開始した。これに伴い紹介状を持参しない軽症な患者さんが減少。また、逆紹介推進で外来患者数を減少させることにより紹介患者さんを多く受け入る余裕ができ、紹介率向上につながり基準値を満たすことが期待できる。

#### (2) 基準を満たすことが予想される時期やスケジュール（見込）

※基準を満たすことが見込まれる時期やそのための取り組みやスケジュールについて御記載ください。

##### ○初診の割合について

令和6年2月より選定療養費を基準金額での徴収を開始した。これに伴い紹介状を持参しない軽症な患者さんが減少する事で基準値を満たすことが期待できる。

##### ○再診割合について

令和4年度4月より「かかりつけ医・2人主治医制」の推進をおこなっており一定の成果が得られたが、今後はさらに推進を進めていく。

##### ○紹介率について

令和6年2月より選定療養費を基準金額での徴収を開始し患者さんも当院受診に際して紹介状が必要と認識の変化がみられる。今後も患者さんへの周知を徹底するとともにさらに地域の医療機関への訪問活動、連携強化に取り組んでいく。



区分：基準×、意向○

(3) 現時点で基準を満たしていないものの、意向を示す理由

※厚生労働省が示す次の3類型に関連付けて、貴院の外来医療の実施状況等について御説明ください。

① 医療資源を重点的に活用する入院前後の外来（例 悪性腫瘍手術前後の外来）

下記の受け入れ体制からの入院前後の外来活用

- ・千葉県地域周産期母子医療センター、輪番制二次救急医療機関、10科目による入院受け入れ体制（特殊科目：血液内科・新生児科）
- ・急性期医療機関として令和4年度は新規入院患者5,925名、救急搬送受け入れ件数2,363件、全身麻酔手術件数1,284件の実績を有する。
- ・現在、常勤麻酔科医4名を中心に、周産期母子医療センターでは24時間手術が可能な体制をとっている。

② 高額等の医療機器・設備を必要とする外来（例 外来放射線治療）

- ・外来腫瘍化学療法診療料1の届け出を行い、令和4年度は824件の外来化学療法を行った。
- ・放射線科を標榜し、常勤医師1名を配置している。CT装置2台、MRI装置1台、SPECT装置1台を有し、他の医療機関からの依頼にも対応している。

③ 特定の領域に特化した機能を有する外来（例 紹介患者に対する外来）

- ・患者サポートセンター（地域連携室部門による外来予約）を設置し、地域の医療機関とのスムーズな連携体制を構築している。  
さらに令和6年度からインターネットによる紹介予約を開始する。
- ・特化した外来診療科目：産科・新生児科・血液内科・小児外科・消化器内科と外科の連携体制（内視鏡センター、消化器病センター）・歯科口腔外科

(参考：貴院からの令和5年度報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来（紹介受診重点外来）の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	37.8%	22.2%	34%	52.2%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	461日/11,016日	9,763日/113,906日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	2,290日/11,016日	15,565日/113,906日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	2,539日/11,016日	2,200日/113,906日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。